⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、前年同期の３兆5,583億円の支払超過から、5,266億円の受取超過となった。収入は、前年同期（１兆3,945億円）に比べ、２兆2,111億円増加して３兆6,056億円となった。一方、支出は、前年同期（４兆9,528億円）に比べ、１兆8,737億円減少して３兆790億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入1,386億円、支出4,456億円、差引き3,071億円の支払超過であって、前年同期（2,747億円の支払超過）に比べ、324億円支払超過額が増加した。

保険の収支は、収入10兆8,964億円、支出11兆3,919億円、差引き4,955億円の支払超過であって、前年同期（5,115億円の支払超過）に比べ、159億円支払超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等（別表１参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成24年度第２・四半期			前年同期		
	発行(借入)	償還	差引き	発行(借入)	償還	差引き
国債等	335,011	188,104	146,907	317,494	206,933	110,561
国債(１年超)	325,925	185,018	140,907	314,496	203,934	110,561
借入金	9,086	3,086	6,000	2,998	2,998	△ 0
国庫短期証券等	1,116,346	1,131,514	△ 15,168	991,344	966,320	25,024
国庫短期証券	1,000,845	1,016,689	△ 15,843	876,519	856,995	19,524
一時借入金	115,500	114,825	675	114,825	109,325	5,500

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は14兆6,907億円の受取超過であって、前年同期（11兆561億円の受取超過）に比べ、３兆6,346億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行32兆5,925億円、償還18兆5,018億円、差引き14兆907億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入9,086億円、償還3,086億円、差引き6,000億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、前年同期の２兆5,024億円の受取超過から、１兆5,168億円の支払超過となった。国庫短期証券の収支は、発行100兆845億円、償還101兆6,689億円、差引き１兆5,843億円の支払超過であった。一時借入金の収支は、借入11兆5,500億円、償還11兆4,825億円、差引き675億円の受取超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 467	△ 22,699	△ 23,167
特別会計等	8,989	6,975	15,964
財政投融資	42,605	4,153	46,758
社会資本整備事業	△ 3,071	4,362	1,291
外国為替資金	5,266	46	5,311
保険	△ 4,955	6,173	1,217
その他	△ 30,856	△ 7,758	△ 38,614
小計	8,521	△ 15,724	△ 7,202
国債等	146,907	△ 12,189	134,719
国債（１年超）	140,907	△ 11,894	129,013
借入金	6,000	△ 294	5,706
国庫短期証券等	△ 15,168	27,912	12,744
国庫短期証券	△ 15,843	32,000	16,157
一時借入金	675	△ 4,088	△ 3,413
合計	140,260	—	140,260
調整項目	2,756	—	2,756
総計	143,016	—	143,016

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成24年度第２・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 5,342	50,506
特別会計の債券売・買（△）	△ 62,382	△ 104,336
財政投融資	△ 21,250	△ 44,770
国債整理基金	△ 41,132	△ 59,566
その他	△ 70,954	△ 51,512
計	△ 138,679	△ 105,342

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、13兆8,679億円の支払超過であって、前年同期（10兆5,342億円の支払超過）に比べ、３兆3,336億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達５兆5,044億円、資金返済６兆387億円、差引き5,342億円の支払超過であって、前年同期の５兆506億円の受取超過から支払超過となった。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、６兆2,382億円の支払超過であって、前年同期（10兆4,336億円の支払超過）に比べ、４兆1,954億円支払超過額が減少した。財政投融資は、２兆1,250億円の支払超過であって、前年同期（４兆4,770億円の支払超過）に比べ、２兆3,520億円支払超過額が減少した。国債整理基金は、４兆1,132億円の支払超過であって、前年同期（５兆9,566億円の支払超過）に比べ、１兆8,434億円支払超過額が減少した。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、７兆954億円の支払超過であって、前年同期（５兆1,512億円の支払超過）に比べ、１兆9,442億円支払超過額が増加した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（14兆3,016億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（2,756億円の受取超過）を除いた収支は、14兆260億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、13兆8,679億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆3,422億円）に比べ、1,582億円増加して１兆5,004億円となった。